

腹部X線写真の読み方 第3回 **見えるものを読み解く**

正常像と比べながら考える



西野 徳之 総合南東北病院（福島県郡山市）消化器センター長

腹部X線写真は胸部と異なり、ガス像から腸管全体をイメージして診断することが多い。だが、時に正常な写真にはない異常な陰影が見付かる場合もある。正常像との比較は経過観察にも応用できる。

にしの のりゆき氏
1987年自治医大卒。90年利尻島国保中央病院（北海道利尻町）内科医長。94年同院長。2007年より現職。

23歳男性。腹痛、嘔吐を伴い、夜間に救急搬送された。当直医は急性虫垂炎を疑い、採血と造影CT検査を施行。症状

は点滴のみで軽快したが、翌日、念のため消化器内科を受診し、腹部X線写真を撮影した(写真1)。さて、何が異常だろうか。

写真1 腹部単純X線写真（再診時、臥位）



一見何の変哲もない写真に見えるが、注意して見てほしい。腎臓がよく見える。むしろ、見えすぎではないだろうか。前日、患者は急性虫垂炎を疑われ、CT検査を受けている。造影剤が残っているために、ここまで鮮明に見えるのである。

造影剤がほとんど排出されていないことから、急性腎不全と診断してよい。既に検査後14時間以上が経過しており、昨日からの排尿回数は、なんと1回だった。泌尿器科へ入院加療を依頼、輸液のみの治療で利尿が回復したため、3日間で退院した。最終診断は、脱水による急性腎不全(腎前性)、行軍血色素尿症、急性発作性ミオグロビン尿症だった。

患者は初診日の昼、運動会に参加していたことから、脱水状態になっていたと考えられる。その後ラーメンを食べた際に腹痛を発症、救急搬送されたのだった。来院時の血液データでは軽度の腎機能障害を認める。多少の脱水はあるが、造影CT検査の禁忌となる値ではないだろう。

初診時の血液データ

WBC	1万2050/ μ L
CRP	0.44mg/dL
BUN	14.2mg/dL
Cr	1.23mg/dL



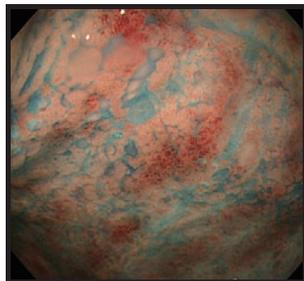
再診時の受診理由は「当直医に再受診を勧められたから」とのこと。既に症状は改善していたが、両背部に叩打痛があり、念のため腹部X線写真を撮影した。診断が遅れば、恒久的な障害を残すことになりかねない症例だった。

X線写真は経過観察にも有用

次の症例を見てみよう。潰瘍性大腸炎の既往がある29歳女性。寛解期が数年間続いたが、第1子出産後より下血を認めた。全大腸内視鏡検査によって軽度な左半結腸型潰瘍性大腸炎と診断した(写真2)。5-アミノサリチル酸製剤により治療を再開したが、10日後にふらつきと日に10回以上の下血を訴えて来院した。初診時と再診時の腹部X線写真を示す(写真3、4)。

本症例は腹部X線写真で、どこまで病態の変化を判定できるかがポイントである。初診時の腹部X線写真では、上行結腸および下行結腸に便の貯留を認める

写真2 初診時の内視鏡写真



色素(インジゴカルミン)散布後。Matts内視鏡分類でグレード1と診断した。

写真3 初診時の腹部単純X線写真(臥位)

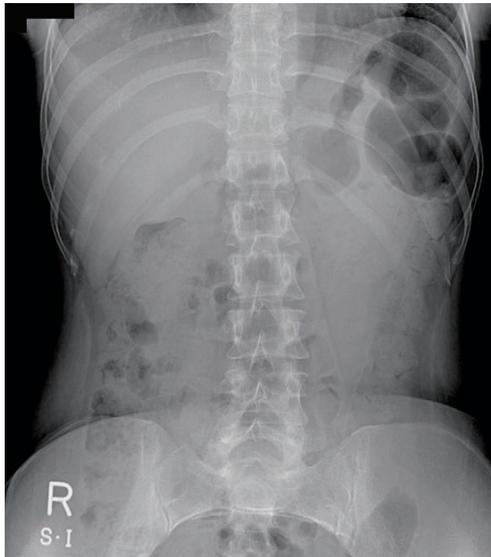


写真4 再診時の腹部単純X線写真(臥位)

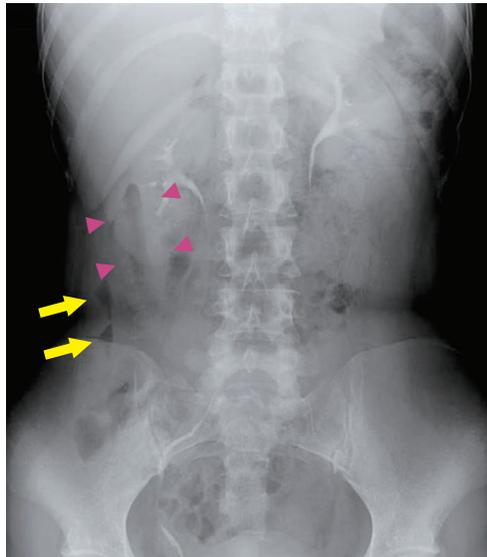


写真5 再診時のCT像



全結腸で炎症性の壁肥厚が認められる。

今回のポイント

- ▶ 正常像と比較して異常な陰影を見極める。
- ▶ X線写真の所見から、さらなる精査の必要性を判断する。
- ▶ 腹部X線写真で臨床経過を観察することもできる。

が、腸管の狭窄は見られない。脾湾曲にガス像を認めるが、下行結腸の便塊による通過障害と読める。この写真から明らかな異常を指摘することはできないだろう。

再診時の写真では、まず右下腹部に三角のガス像があり(➡)、それを囲むようにX線不透過像が認められる。これは上行結腸の壁肥厚と管腔形状の変形と読める。横行結腸の右半(▶)もハウストラが消失し、鉛管(lead pipe)様であるため、壁肥厚と確認できる。つまり初診時からわずか10日間で、全結腸型の中等度の炎症にまで波及したことが分かる。

造影CT検査(写真5)でも、全結腸の浮腫状の炎症性肥厚が認められる。ここまで分かれば、比較的侵襲の大きい大腸内視鏡検査を再施行する必要はないだろう。入院の上、絶食、中心静脈栄養で治療を開始した。白血球除去療法を4回行った後の腹部X線写真(写真6)では、ガス像の見える上行から横行結腸、横行から下行結腸の部分で伸展の改善を認め、壁肥厚もほとんど見られなくなっている。

このように腹部X線撮影は使い方によっては、患者にとって少ない被曝と侵襲で、比較的多くの有用な情報が得られる検査なのである。

本症例も造影CT後に撮影しているため、腎臓がよく見えるが、尿管が描出されているので腎機能は問題ない。

写真6 治療後の腹部単純X線写真(臥位)



次回予告 15歳、女性。主訴は腹痛。
X線写真から緊急度を判定してほしい。

